Panasonic®

取扱説明書

保管用

プラスコンシステム
高機能配線ダクト

■ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
■本設備のトラブル処理・増設などのメンテナンスは電気工事業者に依頼してください。
なお、その際には必ず本取扱・施工説明書をお渡しください。
■コンセントの増設は電気工事士の資格がなくても行えます。
(ご注意) コンセントの着脱・移設・増設の際には、必ず電源を切ってから行ってください。
■この取扱説明書は、必ず保管してください。また、必ずお客様へお渡しください。

安全上のご注意(必ずお守りください)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警 告

禁 止

●商品の改造は絶対にしない
感電・火災・落下の
おそれがあります。

●ベースに当商品の付属品以外を
取り付けない
感電・火災・破損のおそれがあります。

必ず守る

●異常が生じたら速やかに電源を切り、電気工事業者に
連絡をして処置を依頼する
感電・火災・落下のおそれがあります。なおその際には
必ず本取扱・施工説明書をお渡しください。

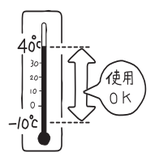
●商品の取り替えには、電気工事士の資格を必要とする

⚠注 意

禁 止

●一般屋内専用のため湿気の多い場
所・振動のある場所・雨の吹き込み
を受ける場所・水気のある場所・腐
食性ガスの発生する場所などでは
使用しない
感電・火災・落下のおそれがあり
ます。

●周囲温度が、−10 ℃〜40 ℃の
範囲外や急激な温度変化で結露
が生じる恐れのある場所などで
は、使用しない
感電・火災・落下のおそれがあります。



●コンセントの逆向き接続はしない
接続不良により、火災のおそれがあ
ります。
●ベースに水や、洗剤などをかけない
感電のおそれがあります。
●ベース内部に異物をいれない
感電・火災のおそれがあります。
●ベースおよびコンセントに重いものを落としたり、
ぶつけたりするような強い衝撃を与えない
感電・火災のおそれがあります。

必ず守る

●点検の際には必ず電源を切ってから行う
感電のおそれがあります。

●地震の発生後は、電源を切り、取り付け強度が十分あるか調査し、異常がある場合は電気工事業者に相談する
落下のおそれがあります。
なお、その際には必ず本取扱施工説明書をお渡しください。
●コンセントの移設を行った際は、移設後ベースカバーを
必ず取り付ける
塵埃などにより、感電・火災のおそれがあります。
●コンセントの移設・増設を行った際は、ロック部を
必ず時計方向に90°回転させる
接触不良により、感電・火災のおそれがあります。

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地　TEL.(06)6908-1131〈代表〉
© Panasonic Corporation 2012
DH17009W-T11
DC1209-10112

Panasonic®

施工説明書

プラスコンシステム
高機能配線ダクト

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■この商品の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

安全上のご注意(必ずお守りください)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警 告

禁 止

●商品の改造は絶対にしない
感電・火災・破損のおそれがあります。
●周囲温度が、−10℃〜40℃の範囲外や急激な温度変
化で結露が生じる恐れのある場所などでは使用しない
感電・火災のおそれがあります。

必ず守る

●この商品は、電気設備技術基準の解釈に従って施工す
る本商品を設置する場合は、電源回路に必ず漏電遮断
器(定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以内の
もの)を施設する
感電・火災・破損のおそれがあります。
●施工の際は、必ず電源を切ってから行う
感電のおそれがあります。
●施工は、この本取扱・施工説明書に従って正確に行なう
施工に不備があると感電・火災・破損のおそれがあり
ます。

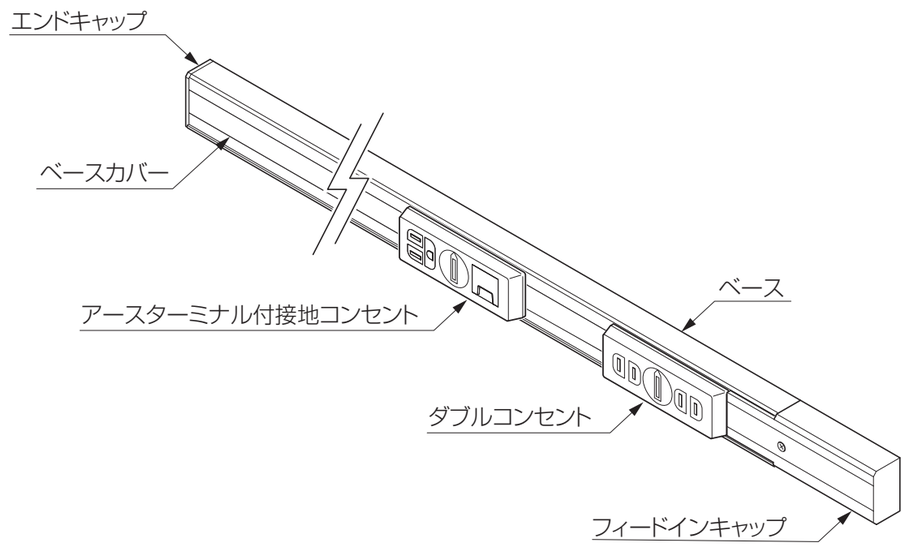
⚠注 意

禁 止

●一般屋内専用のため、湿気の多い場所・振動のある
場所・雨の吹き込みを受ける場所・水気のある
場所・腐食性ガスのある場所などでは使用しない
感電・火災・破損のおそれがあります。
●本体は造営材を貫通して施設しない
火災のおそれがあります。
●コンセントの逆向き取り付けは、絶対にしない
接触不良により、火災のおそれがあります。

必ず守る

●表示の定格、負荷容量の範囲内で使用する
範囲を超えると、焼損や火災のおそれがあります。
●施工後ベースカバーは必ず取り付ける
塵埃などにより、感電・火災のおそれがあります。
●切断加工などをする場合は、眼鏡などの防護具を
使用する
怪我をするおそれがあります。
●切断加工などをした後は、やすりなどでバリを取り除く
手指のけがをするおそれがあります。

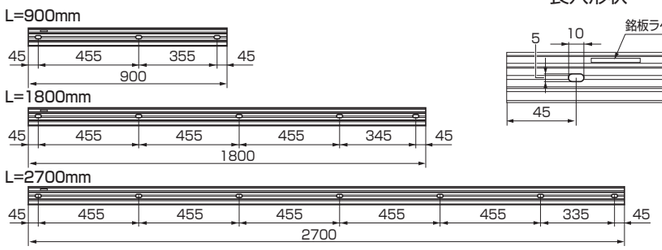


プラスコンシステムの施工方法

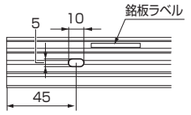
1 ベースの切断

- 標準サイズ以外の長さに調節する際には、金のこ(手のこ)をご使用ください。
- ベースの切断は、右図のように開口部を上向きにして切断してください。
- ベースは、銘板ラベルの反対側を切断し、銘板ラベル側をご使用ください。
- 布設長さを確認したうえで、フィードインキャップ、エンドキャップの寸法を差し引いて切断してください。

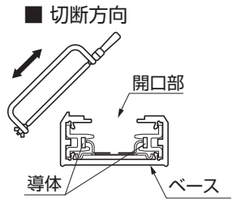
■ ベースの標準サイズおよび取り付け穴位置

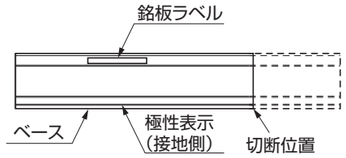


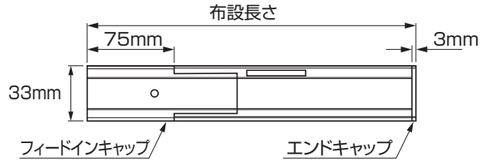
長穴形状



■ 切断方向







⚠注 意

必ず守る

- 切断面のカエリ、バリ、切りくずなどはきれいに取り除く。特に、導体表面には異物などの付着物がないようにする
  感電・火災のおそれがあります。

2 フィードインキャップの取り付け

1.ベースにフィードインキャップを差し込み、セットねじを締めて固定する
2.カバー裏面に表示したストリップゲージに合わせて電線を15mm段むきした後、電源線をのぞき穴から見えるまで差し込む
3.アース線は、アース端子に巻き締め接続または、圧着端子を用いて接続する

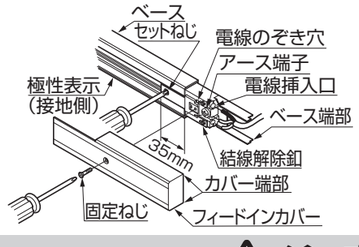
- 電源線を外す場合は、ドライバーなどで結線解除釦を押しながら、電源線を引き抜いてください。
- ベースカバーは、ベース端面より35mm切断してください。

■フィードインカバーの取り付け

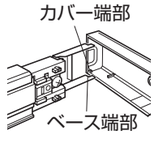
- フィードインカバーの取り付けは、カバー端部をベース端部に引っ掛けた後、固定ねじを締めて取り付けてください。

■フィードインカバーの取り外し

- フィードインカバーの取り外しは、固定ねじを緩めて取り外してください。



■フィードインカバーの取り付け



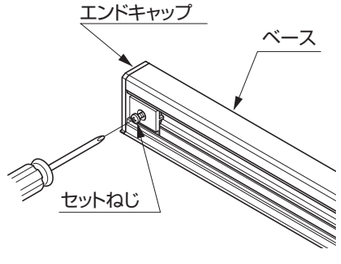
⚠注 意

必ず守る

- 電源線の接続は、ベースの極性表示側(凸部側)を必ず接地側とする
  感電・火災・商品の破損のおそれがあります。
- 電源線は、1.6mmまたは2mmの単線(銅線)を使用する
- セットねじは、確実に締め付ける(締付トルク0.98N・m以上)
  感電・火災のおそれがあります。

3 エンドキャップの取り付け

- ベースの終端部に差し込み、セットねじを締めて固定してください。
- 取り付け後、ベースカバーを取り付けてください。



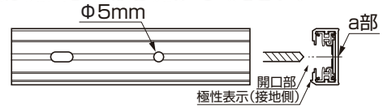
⚠注 意

必ず守る

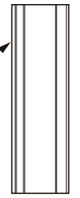
- 終端部には必ずエンドキャップを取り付ける
- セットねじは、確実に締め付ける(締付トルク0.49N・m以上)
  感電・火災のおそれがあります。

4 ベースの取り付け

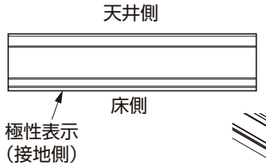
- ベースにフィードインキャップ、エンドキャップを取り付けた後、ベースの取り付け穴を利用して壁面に取り付けてください。
- 壁面に水平に取り付ける際は、ベースの極性表示側(凸部側)が床側となるよう取り付けてください。
  壁面に垂直に取り付ける際は、ベースの極性表示側(凸部側)が向かって左側となるよう取り付けてください。
- 壁の仕上がり状況などに合わせてより堅固に取り付ける場合は、
  a部に取り付け穴(Φ5mm)を開け木ねじで取り付けてください。
  取り付け穴は開口部側から開けてください。

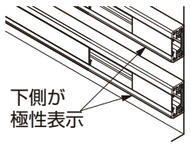


■垂直取付の場合



■水平取付の場合





⚠注 意

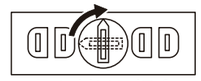
必ず守る

- 取り付けねじ使用位置には、コンセントを取り付けない
  感電・火災・商品の破損のおそれがあります。
- 本体取り付け後、必ずベースカバーを取り付ける
- 本体に穴加工をした際は、加工部のカエリ、バリ、切りくずなどをキレイに取り除く
  感電・火災のおそれがあります。

5 コンセントの取り付け

取り付け方法

1.取り付け場所のベースカバーを95mm切り取ってダブルコンセントを差し込む。
2.中央のロック部をドライバーなどで時計方向に90°回転させる。

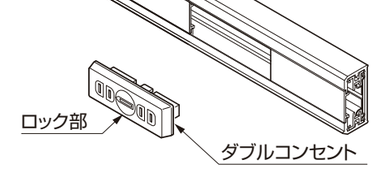


取り付ける場合

取り外し方法

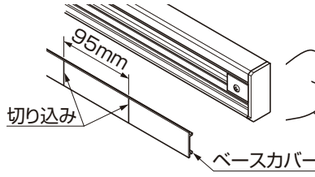
- 中央のロック部を時計と逆方向に90°回転させる。

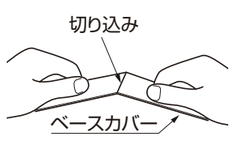
取り外す場合

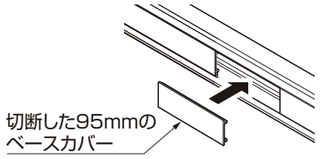


コンセントの移設・増設

1.取り付けしたい場所のベースカバーを外す。
2.コンセント取り付け部の開口部が95mmとなるようベースカバーにあらかじめカッターなどで切り込みを入れ切断する。
(何度か切り込みを入れ、図の様に折り曲げると、簡単に切断できます。)
3.切断したベースカバーを取り付けた後、コンセントを差し込む。
4.コンセントの移設をおこなった後は、切断した95mmのベースカバーを移設前の位置に取り付ける。

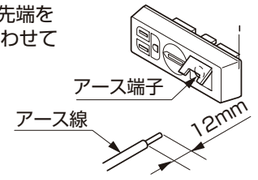






アース端子からアースを取る(アースターミナル付接地コンセントの場合)

1.接続するアース線の先端をストリップゲージに合わせて12mm被覆をむく。
2.アース線は端子部に差し込んで、ねじを締め付ける。



⚠注 意

必ず守る

- コンセントの逆向き接続はしない
  感電・火災のおそれがあります。
- コンセントの移動は、必ず電源プラグを抜いてから行う
  感電のおそれがあります。
- コンセントの移設を行った際は、移設後、ベースカバーを必ず取り付ける
  ホコリなどにより感電・火災のおそれがあります。
- 無理にコンセントの片側にピンなどを挿入しない
  安全扉が破損しコンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ベースカバー切断時は斜め切りにならないように注意する